

科目区分	専門分野	単位数・時間数	2単位・90時間	開講時期	2年・後期
授業科目名	老年看護学実習			授業形態	臨地実習
担当教員	武森 勢津子		実務経験	○（看護師）	
授業概要	老年期もある対象とその家族を理解し、加齢現象に応じた看護を学ぶ。また、健康障害を持つ対象とその家族に対する看護を学ぶ。看護を実践する基礎的能力を養い、保健、医療、福祉の連携における看護者の役割を理解するとともに、自己の老年看護観を発展させる。				
学習目的	老年期の健康障害の特徴を理解し、対象の健康問題を統合的に学ぶ。また、対象の健康障害に応じた看護とその家族に対する看護を学ぶ。				
到達目標	1. 老年期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から対象を理解できる。 2. 加齢に伴う変化が対象の健康障害に及ぼす影響が理解できる。 3. 対象の健康障害を考慮し、生活の視点から必要な援助が実施できる。 4. 老年期にある対象の継続看護の必要性和家族に対する援助が理解できる。				
授業内容	1. 老年期にある対象の加齢に伴う変化を身体的・精神的・社会側面から対象を理解できる。 1) 対象の発達段階の特徴や発達課題が理解する。 2) 健康障害や彼嬢変化が対象の身体面・精神面に及ぼす影響について理解する。 3) 対象の入院や治療による社会・家庭での役割の変化を理解する。 2. 加齢に伴う変化が対象の健康障害に及ぼす影響が理解できる。 1) 対象の病態生理およびその経過を理解する。 2) 高齢者の健康障害の複雑さ・多様性を理解する。 3) 対象の疾患や入院が、日常生活機能に及ぼす影響が理解する。 3. 対象の健康レベルや健康障害を考慮し、生活の視点から必要な援助が実施できる。 1) 対象の残存機能、潜在能力を生かした援助を行う。 2) 対象の安全・安楽・自立を考慮した日常生活援助が実施する。 3) 対象の人生観や価値観をふまえ尊重した対応を行う。。 4) 対象の反応・変化から実施した援助を評価でする。 4. 高齢者の継続看護の必要性和家族に対する援助が理解できる。 1) 対象が活用できる社会資源と法的根拠を述べる。 2) 対象にとって家族がどのように影響しているかを知り、家族に必要な援助を考える。 3) 継続看護の必要性和対象を取り巻く医療チームの側面から看護師の役割を理解する。 実習期間：12日間 実習時間：8：00～15：30 実習展開については実習要項参照				
評価方法	老年看護学実習の評価基準に従い、実習での取り組み、実習記録、実習前から実習後までの学習状況から学生・教員（臨地実習指導者所見）で評価を行い総合評価がC以上で合格とする。				
教科書 参考書等	系統看護講座 専門分野 老年看護学（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論（医学書院） 看護診断定義と分類 看護診断ハンドブック（医学書院） NANDA-I看護診断				
備考					